

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 25 日現在

機関番号：11301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884003

研究課題名(和文) 祥瑞災異思想の六朝以降の展開と社会受容 天文五行占を中心として

研究課題名(英文) The Development and Social Acceptance of Xiangrui-Zaiyi after the Six Dynasties: Divination of Mysterious Phenomena and Disasters

研究代表者

佐々木 聡 (SASAKI, Satoshi)

東北大学・東北アジア研究センター・専門研究員

研究者番号：60704963

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：一年半の研究期間の中で、天文五行占書を所蔵する国内外の機関を中心に、調査を実施し、テキストの伝存状況を把握すると共に、六朝から清朝までの勅撰系の天文五行占書の流れを整理することが出来た。また、民間占書との比較から、両者の比較の性格の相違も明らかとなった。勅撰系天文五行占書は、儒教理念を下敷きとしており、鬼神の祟りや呪術による凶兆の回避などはあまり言及されない。それに対し、民間占書では、鬼神の祟りや呪術による対応が豊富に説かれる。その他、調査では、勅撰占書と民間占書の間位置付けられる非勅撰系の天文五行占書の伝本も見つかっており、その成立背景や社会的意義の解明が今後の課題として見えて来た。

研究成果の概要(英文)：In this research project, I researched the preservation situation of divination books written by imperial order at domestic and foreign libraries. As a result, the stream of divination books from the six dynasties to the Qing Dynasty became clear. And a comparison of private and imperial divination books revealed a central difference. Imperial divination books are based on Confucianism and do not refer to the curses of ghosts or gods or to their exorcism by magic. On the other hand, private divination books do refer to demon's curses and various magical procedures for exorcizing them. Additionally, in this research project, I found some non-imperial divination books that have contents like imperial divination books. It is new assignment for me to clarify their background and social importance from now on.

研究分野：宗教文化史

キーワード：祥瑞 災異 妖怪・怪異 天文 五行 占書 鬼神観 神獣

1. 研究開始当初の背景

本研究の中心テーマである「祥瑞災異思想」とは、天と人（特に為政者）とが相互に連動し合うとする「天人相関」観念に基づき、君主の治世や振る舞いに過失があれば、天が災害や怪異を下して戒め、逆に世が安寧であれば、天が様々な祥瑞を下して報奨する、という観念である。

祥瑞災異思想は、先秦時代に思想的淵源を求められるが、特に漢代の董仲舒に至り、「災異説」として強調され、儒教国教化の流れの中で国家理念に取り込まれていった。『漢書』以降、天文志と五行志が正史に設けられるのは、こうした国家理念としての祥瑞災異思想に基づくものと言える。

その一方で、後漢代になると、祥瑞災異思想は、予言的性格を持つ讖緯説と密接に結びつき、未来を読み解く「占い」として機能するようになる（引用文献）。そこで作られるようになるのが、本研究で中心資料として扱う「天文五行占書」である。（この「天文五行占書」の呼称は小林春樹氏・山下克明氏らの研究に基づく（引用文献））

従来の研究では、祥瑞災異思想は、主に漢代思想の枠組みの中で研究されてきたように思われる。それは祥瑞災異思想が漢代の特色的思想であると同時に、国家理念的的政治性を有するためであろう。したがって、そこから成立してくる天文五行占書もまた「緯書」（経書の神秘的解釈書）の流れを汲む資料として、漢代儒教的観点から研究されてきた。その一方で、後世における祥瑞災異思想の在り方には、従来の研究では殆ど目が向けられてこなかった。例えば、吉川忠夫氏は、宋・鄭樵の五行志批判を取り上げて、災異説が後世では理解しえない、まさしく漢代固有の思想であったことを強調している（引用文献）。

こうした漢代を中心とする祥瑞災異思想研究の方向性により、これまで重要な成果がいくつも上げられて来たことは周知のとおりである。しかし、それでもなお、こうした漢代を中心とする見方が、後世の祥瑞災異思想の在り方全てを表しているとは、必ずしも言えないのではないだろうか。何故なら、北周で勅命により編纂された庾季才『靈台秘苑』、唐代の李淳風『乙巳占』、李鳳『天文要録』、薩守真『天地瑞祥志』、瞿曇悉達『開元占経』、宋代の仁宗『宝元天人祥異書』、李季『乾象通鑑』、『観象玩占』、楊惟徳『乾象新書』、史序『乾坤宝典』、さらに元末明初の『天元玉曆祥異賦』や清代の『欽定天文正義』など、前近代を通じて、祥瑞災異思想に基づく勅撰・官撰の天文五行占書が数多く編纂されている。これらはいずれも天文気象占や怪異五行占を網羅した類書の構成をとり、数十から百巻を超える大部なものであった。

従来の研究では、こうした祥瑞災異思想の後世的展開を示す天文五行占書は、殆ど着目

されてこなかった。本来これらは国家により私習を禁じられた学問として、その実態が謎に包まれていたという事情もあったが、例えば、代表的な安居香山氏・中村璋八氏らの緯書研究（引用文献）や最近の黄復山氏の研究（引用文献）等でも、一部が基礎資料として参照されるものの、いずれもそこに引かれる漢代の「緯書」の佚文として着目したものであり、天文五行占書そのものの編纂意図や全体構成などは、あまり注目されてこなかった。

また、こうした事情により、未刊行資料を含む原本テキストの調査もまた殆ど行われてこなかった。これにより、資料の基本的に理解を含めて、多くの問題が看過されてきたと言える。

2. 研究の目的

以上の背景を踏まえ、本研究の目的を、漢代に国家理念となる「祥瑞災異思想」の六朝以降の展開、及び社会受容について明らかにする、ことと設定した。

その中心となる天文五行占（天変地異及び怪異現象から未来を占う方法）を載録する資料群については、申請者は以前から、『開元占経』『天元玉曆祥異賦』など一部の勅撰系の天文五行占書について伝本調査を進め、異本の存在やテキスト問題（字句の異同や後世の改編）などを明らかにしてきた。

そこで本研究では、これまでの研究を踏まえ、さらに研究対象を広げ、より俯瞰的視点から天文五行占書を調査し、通時代的に諸書の内容分析や比較研究を行うことで、祥瑞災異思想の歴史的展開、及びその社会受容を明らかにすることとした。

3. 研究の方法

具体的な研究方法としては、第一に、天文五行占書は、伝本テキストの多くが、影印本や校本などがいずれも未刊行であることから、まずはこれらの全体的把握が最も基本的な作業となる。

また天文五行占書には、異本が極めて多く、加えて殆どが写本である。そのため、前近代を通じて校訂・刊刻を繰り返し経て来た経書などと比べて、テキストの乱れも多いことがこれまでの調査から分かっている。

そこで、先ず六朝から清代までに編纂された勅撰・官撰の天文五行占書を中心に、関連資料も含めて、先行研究や目録、また所蔵機関のデータベースなどを参考にリストアップし、より多くのテキストを所蔵する機関を中心に調査を実施することとした（実際に、調査を実施した機関は次項「4. 研究成果」

を参照されたい)。

実地調査では、複写許可を得やすい国内や台湾などの機関では、調査所見を記録すると共に、全体もしくは部分的な複写を行い、テキストの収集に努めた。また大陸中国の図書館など、複写や撮影が難しい機関では、主に伝本の特徴などの所見を記録し、複写資料や影印本との比較や筆写により資料を収集することで、伝本のヴァリエーションの把握に努めた。

次いで、勅撰系の天文五行占書を中心に、通時代的な視点から整理と比較を行い、その構成の特徴や変遷、及び諸書の繋がり等进行分析した。また同時に、社会的意義や民間受容のあり方を明らかにするため、敦煌で発見された唐～五代の民間占書や近世の日用類書に見える天文五行占などとの比較検討も進めていった。

4. 研究成果

一年半の研究期間の中で、調査を実施した図書館は次の通りである。

【国内】

国立公文書館
京都大学人文科学研究所
京都府立総合資料館
大將軍八神社方徳殿
東北大学図書館
金沢市立玉川図書館近世史料館
石川県立図書館
秋田県立図書館

【海外】

上海図書館
復旦大学図書館
浙江図書館
南京市図書館
北京国家図書館
北京大学図書館
天津市図書館
台湾国家図書館
中央研究院傅斯年図書館
香港大学図書館

* 資料の対校や筆写のため複数調査を実施した図書館もある

以上の調査により、これまでの調査成果と合わせて、伝存する天文五行占書のテキストから、六朝から清朝までの勅撰系の天文五行占書の流れを大まかに整理することが出来た(成果論文)。

また、本来、勅撰系の天文五行占書は、近世以前は禁書として民間で公に流通することが禁じられてきたことが知られるが(引用文献、) 伝本調査から、明末から清代になると、あまり厳しく禁圧されず、実際に

出版されたものが少なくないことも明らかになってきた。例えば、明末の『天元玉曆祥異賦』有図有注本(余文龍刻本)や清初の『天文大成管窺輯要』、清末の『開元占経』恒徳堂本などがその例であるが、清末に、『乾象通鑑』を出版しようとした蕉林逸史のような人物もいたことが実地調査から明らかになった。今後、こうした出版の背景や禁書の実態をより深く明らかにする必要性が見えてきたと言える。この点は、西洋天文学の流入などとも合わせて考える必要がある。一般的に、天文占学と天文科学は、対立的に捉えられがちではあるが、例えば、先の蕉林逸史などは、『乾象通鑑』100巻の出版を企画するにあたり、同時に東西の天文科学を集成した『乾象通鑑後編』100巻を編纂し、合わせて出版しようとしたようである。(『乾象通鑑』は復旦大学に、『乾象通鑑後編』は香港大学に、蕉林逸史の手稿本が伝存するが、結局は未刊されなかったものと考えられる。)

一方で、民間占書との比較から、両者の比較の性格の相違もより明確になった(成果論文 参照)。勅撰系の天文五行占書は、儒教理念を下敷きとしており、鬼神の祟りや呪術による凶兆の回避などはあまり言及されない(むしろそうした辟邪儀礼を固辞した者が聖人として称賛される)。

それに対し、敦煌占書に代表される民間占書では、鬼神の祟りや呪術による対応が豊富に説かれるなどの特徴が見いだせる。尤も、こうした民間占書で説かれる怪異は、天文占の割合が少ないなどの傾向の違いはあるものの、概ね勅撰系の天文五行占書や五行志などに見えるものが多く、怪異観念が、社会階層や身分を超えて共有されていたことが窺える。

また、こうした怪異観念が、後世の日用類書に設けられた「法病門」などにも継承されてゆくことも分かって来た。例えば、明代の日用類書『萬書淵海』巻34法病門には、様々な怪異を起こすのは、日ごとに決まった鬼神であるとする。例えば、「巳日に怪異を見るのは、家の祖先の鬼が怪異を起こしているのだ」と言い、次のように怪異現象とその吉凶を列挙する。

- ・蛇の怪異は、家長の災いの事を掌る
- ・狐狸の怪異は、分不相応な贈り物や収入の事を掌る
- ・釜やこしが鳴る怪異は、労役の事を掌る
- ・めんどりが鳴く怪異は、凶事が発生することを掌る
- ・犬の怪異が木の根元で起これば、そこに神が宿る
- ・鵲が糞をして衣服を汚す怪異は、凶事の発生を掌る
- ・鼠が衣服を噛む怪異は、収穫に吉
- ・様々な虫の怪異は、災いや凶事を掌る

ここに見える怪異現象もまた五行志や『開元

占経』などにも類型が見えるものであり、怪異観念としては、敦煌占書などの流れを継承しているものと言える。これらの占いは勅撰系天文五行占書と違い、占う吉凶は、個人的な未来であるが、何を怪異と捉えるかの観念は共通していると考えられる。

なお、こうした点は、今後、天文五行占のみならず、病因観念との関係なども踏まえ、検討してゆく必要がある。例えば、法病門のもう一つの淵源として、敦煌文献に見える通俗的な占病書が考えられる。占病書の中には、民間の怪異占書同様、怪異や鬼神に関する豊富な記述、さらには呪符や呪術なども見えており、如上の観点から、改めて検討の余地が出て来たと言える。

また、こうした社会通念としての怪異観を明らかにする必要から、王充『論衡』を中心資料として、漢代の鬼神観と祥瑞災異思想との関係についても改めて検討を行った(成果論文)。これにより、国家と個人をつなぐ祥瑞災異思想の有り方、そして、その中で鬼神と怪異がどのように結びき、一つの世界観を形成しているのかが見えて来た。

その他、調査・研究の成果として、勅撰占書と民間占書の間際に位置付けられる非勅撰系の天文五行占書の存在も明らかになってきた。これらの内容は勅撰系の天文五行占書に近いものの、全体構成の相違や一部に通俗的内容を含むものもあり、本研究開始当初は、勅撰系の一つと考えていたが、研究の進展から改めて勅撰系と民間の間際に位置づけた上で、一群の資料として検討する余地が出てきた。

既に、非勅撰系天文五行占書の代表例として、『礼緯含文嘉』(台湾国家図書館・浙江図書館所蔵。なお天津図書館と北京大学図書館にも同名の内容の異なる占書が収められる)について、簡単な伝本の紹介を行った(成果論文)。本書を例に挙げれば、全体的な内容は、国家の未来を占う天文気象占や怪異五行占である点で、勅撰系の天文五行占書と共通する性格をもつ。しかし一方では、勅撰系と比べて、天文気象占が少なく、怪異五行占の割合が多い、また、やや通俗的な辟邪儀礼や個人レベルの占法に加えて、神仙道と関わる望気術など、かなり雑多な内容も載録されているなど、固有の性格も見出せる。

尤も、非勅撰系の天文五行占書には、様々なものがあり、必ずしも一概に論じることができない。もとより、伝来や由来の不明な資料も多いため、今後より慎重に個別の占書に対して内容の分析を進めると同時に、様々な占書を包括した資料群の全体の特徴の把握に繋げていければと考えている。

引用文献

日原利国「災異と讖緯 漢代思想へのアプローチ」、『東方学』43号、1972、p.37

小林春樹・山下克明、『「若杉家文書」中国天文五行占資料の研究』、大東文化大学東洋研究所、2007

吉川忠夫「解説」、吉川忠夫・富谷至『漢書五行志』、平凡社、1986、p.22

安居香山、『緯書と中国の神秘思想』、平川出版社、1988

安居香山・中村璋八、『緯書の基礎的研究』、漢魏文化研究会、1966

黄復山、『東漢讖緯学新探』、台湾学生書局、2000

林平、『宋代禁書研究』、四川大学出版社、2010

安平秋・章培恒『中国禁書大観』、上海文化出版社、1990

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

佐々木聡、王充『論衡』の世界観を読む 災異と怪異、鬼神をめぐる、東アジア怪異学会編『(アジア遊学)怪異を媒介するもの(仮)』(勉誠出版)、査読無、印刷中、2015、印刷中

佐々木聡、伝世術数文献と敦煌占書 天文五行占書をめぐる二つの系譜、『敦煌学国際学術研討会予稿集』、査読無、なし、2015、pp.321-335

〔学会発表〕(計3件)

佐々木聡、災異と怪異をめぐるアプローチの再検討、東アジア怪異学会(第97回定例研究会)2015年3月7日、園田学園女子大学(尼崎市)

佐々木聡、伝世術数文献と敦煌占書 天文五行占書をめぐる二つの系譜、敦煌学国際学術研討会・京都2015、2015年1月29日、京都大学(京都市)

佐々木聡、中国の怪異と社会通念、研究フォーラム「驚異と怪異：想像界の比較研究に向けて」、2014年10月12日、国立民族学博物館(吹田市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
研究フォーラム「驚異と怪異：想像界の比較
研究に向けて」

<http://www.minpaku.ac.jp/research/acti vity/news/rm/20141012>

敦煌学国際学術研究会

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/wp-cont ent/uploads/2015/01/poster1.pdf>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 聡 (SASAKI, Satoshi)
東北大学・東北アジア研究センター・専門
研究員
研究者番号：60704963

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：